

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2025-10-01

No. 179



株式会社 コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC &安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: IEC 60335-1:2020 解釈シート 2 が発行	3
IEC: e-tech: 四角いピンと丸い穴: IEC による世界のプラグとコンセントの安全の確保	4
IEC: 新規格リスト	5
ISO: 新規格リスト	10
国際テーマ: 電気・電子製品に使用されているプラスチックの今後	11
国際テーマ: ユーラシア経済連合: エネルギー効率関連技術規則の施行が再延期	12
国際テーマ: 中国における一部製品のエネルギー表示実施規則の改訂	13
国際テーマ: ブルンジにおける無線・通信機器の新規制	14
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	14
USA: FCC: FCC、「不適切な試験所」に対する措置を実施	15
USA: FCC: KDB: TCB、試験所、試験所認定機関の所有権関連要求事項の施行時期	16
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	17
USA: エネルギースター: 運用細則（制度、画像機器）が公開、2025 年 9 月 1 日施行	17
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	18
USA: IEEE: 新規格リスト	20
カナダ: ISCED: 無線標準仕様 RSS-102 の関連文書が 2 件発行	21
EU: 防爆指令の整合規格情報	24
EU: 循環型経済: リサイクル効率と廃電池からの資源回収を向上させる新規則	25
UK: 無線機器と機械の指定規格情報	26
EU: CENELEC: 新規格リスト	28
EU: ETSI: 新規格リスト	31
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト	32
中国: CNCA: グリーン製品認証実施規則の公布に関する公告	33
中国: CQC: 家庭用及び類似用途の電気機器の安全及び EMC 認証規則の改訂に関する通知	33
中国: CQC: 据置型電子機器用の Li-ion 電池及び電池パックの安全認証実施規則改訂通知	35
中国: CQC: 制御ケーブル及びコンピュータケーブルの安全認証規則関連通知	35
中国: CQC: 有害物質使用制限 (RoHS) 認証規則の改訂に関する通知	36
中国: CQC: 電子製品の省エネ認証規則の改訂に関する通知	37
中国: 新規格リスト	38
台湾: BSMI: 「検査対象の手持ち形電動工具商品の関連検査規定」改正案	40
台湾: 新規格リスト	41
韓国: KATS: e-国家規格認証代替サイトのご案内	41
韓国: KS 新規格リスト	42
総務省: 情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会 CISPR B 作業班配付資料43	
経済産業省: 経済産業省と JISC、2029 年 IEC 大会を日本に招致	44
コスモス・コーポレーションからのご案内: 塩水噴霧試験のご案内	23
ちょっといっぽく~小クイズコーナー 世界のプラグ・コンセントの形状・電圧は?	32
社長の独り言	45



IEC: 規格解説: IEC 60335-1:2020 解釈シート 2 が発行

大型金属イオンバッテリーに対する IEC 60335-1:2020 の機械的衝撃試験と振動試験に関する解釈シート 2 が発行された。重量が 12kg を超えるような大型バッテリーに関しては、UN 38.3 の輸送試験または IEC 62281 規格と同じ区別に従う必要がある。

IEC: e-tech: 四角いピンと丸い穴: IEC による世界のプラグとコンセントの安全の確保

世界には多様な形状のプラグとコンセントが存在している。19 世紀末に電気が導入されてから、20 世紀初頭に各国は地域の事情に応じ独自の方式を開発し、国際的な互換性は重視されていなかった。その後、戦争や既存インフラの定着により統一は困難となった。しかしながら、形状の違いにもかかわらず、安全性の基本原則は国際電気標準会議（IEC）が策定する規格により確保されている。国際的に採用されることを意図して IEC が開発した、整合されたプラグ・コンセントシステムの規格、IEC 60906-1 は、一部の国で採用されている。IEC 規格は USB 充電器のように産業界の協調による相互運用を可能にしており、再生可能エネルギーや IoT など幅広い分野で国際的な安全と信頼を支えている。また、IEC の [World plugs](#) ウェブサイトでは、世界各国の各種プラグ、電圧、周波数を確認できる。

USA: FCC: FCC、中国関連とされる「不適切な試験所」に対する措置を実施

FCC は、外国政府等の管理下にあると判断された 7 つの「不適切な試験所」の認定取り消し手続きを開始した。また、他の 4 つの試験所については、規則採択以降に認定が失効しており、更新されない。「不適切な試験所」とは、米国内で使用される電子機器の評価・認証を行う試験所でありながら、最終的に外国の政府等によって所有または管理されている試験所を指す。

カナダ: ISED: 無線標準仕様 RSS-102 の関連文書が 2 件発行

カナダ ISED は、2025 年 9 月 11 日付けで、無線標準仕様(RSS) 102「無線通信装置の無線周波（RF）電磁界への曝露に関する適合性」に関連する下記の文書 2 件を発行した。

- RSS-102.IPD.MEAS 第 2 版－RSS-102 にしたがって入射電力密度（IPD）の適合性を評価するための測定手順
- RSS-102.IPD.SIM 第 2 版－RSS-102 にしたがって入射電力密度（IPD）の適合性を評価するためのシミュレーション手順

前者は発行日から 6 か月間の移行期間があるが、後者は発行日をもって有効となる。

経済産業省: 経済産業省と JISC、2029 年 IEC 大会を日本に招致

経済産業省、日本産業標準調査会（JISC）は、2025 年 9 月 19 日にインド・ニューデリーで開催された IEC 総会において、2029 年 IEC 大会を招致することを公式に表明した。

IEC: 規格解説: IEC 60335-1:2020 解釈シート 2 が発行



Summary

大型金属イオンバッテリーに対する IEC 60335-1:2020 の機械的衝撃試験と振動試験に関する解釈シート 2 が発行された。重量が 12kg を超えるような大型バッテリーに関しては、UN 38.3 の輸送試験または IEC 62281 規格と同じ区分にしたがうべきである。

この解釈シートは、IEC 専門委員会 61: 家庭用及びこれに類する電気機器により作成された。---

TC 61 解釈シート: 大型金属イオンバッテリーに対する IEC 60335-1:2020 の機械的衝撃試験と振動試験

コスモス注: 文中の (*) と (**) は弊社で追記したもので、解釈シート自体には記載されていない。

緒言

現在、規格には次のように述べられている。

B.24.1 バッテリーに使用されている非酸性の電解質セルの関連規格は、ニッケル系のものに関しては IEC 62133-1:2017、リチウム系のものに関しては IEC 62133-2:2017 である。

注記 セルの要求事項は、バッテリー自体には適用しない。

金属イオン化学系を用いているバッテリーは、追加で IEC 62133-2:2017 の 7.3.8.1 項 (振動試験) と 7.3.8.2 項 (機械的衝撃試験) の対象となる。

IEC 60335-1 第 6 版に関して附属書 B (*) が作成された当時、想定されていたバッテリーは携帯用途向けで比較的軽量なものであった。参照されている IEC 62133-2:2017 は、携帯用リチウムバッテリーのみに適用される。

(*) IEC 60335-1:2020 附属書 B: バッテリー駆動機器並びにバッテリー駆動機器に用いる分離接続形バッテリー及び着脱充電式バッテリー

非携帯用及び/または大型バッテリー (重量が 12kg 超え) に関して、IEC 62133-2 の機械的衝撃試験と振動試験は適切でない。

質問:

大型バッテリーに関して、どのような機械的衝撃と振動の試験にしたがわなければならないか?

回答:

実的な理由から、IEC 60335-1 は、UN 38.3 の輸送試験または IEC 62281 規格 (輸送中の一次及び二次リチウムセルとバッテリーの安全性) の区分と同じ区別 (**) をすべきである。

(**) UN 38.3 の 38.3.2.2 項では、大型バッテリーは総質量が 12kg を超えるリチウム金属バッテリーまたはリチウムイオンバッテリーと定義されている。

重量が 12kg を超える、より大型のバッテリーについては、IEC 62281:2019 (AMD1:2021 と AMD2:2023 を含む) の 6.4.3 項 (試験 T-3: 振動) と 6.4.4 (試験 T-4: 衝撃) を適用してもよい。

注記 1 これらの試験は、国連試験方法・基準マニュアル改訂 8 版の 38.3 項の試験 T.3 及び T.4 と技術的に同一である。

注記 2 IEC 62281:2019 の表 5 にしたがって、試験はバッテリーを包装せずに行う。

<https://webstore.iec.ch/en/publication/105687>

Source: IEC



株式会社コスモス・コーポレーション

試験設備のご案内(塩水噴霧試験)

◎ 塩水噴霧試験機

材料の耐腐食性を確認・検証される際は、是非ご連絡ください。

<試験装置>



仕様

温度設定範囲	塩水噴霧試験: 35℃(試験室), 47℃(圧力桶温度) 耐腐食試験: 50℃(試験室), 63℃(圧力桶温度)
試験溶液	中性塩水(pH6.5~7.2)
対応可能規格	ISO9227, JIS Z 2371, IEC60068-2-52 等
テストエリア寸法	W900mm × H300mm × D600mm(容積: 約 81ℓ) (試験可能サイズに関しては、お問い合わせください。)

弊社では他にも、国内外の安全規格 などの粉塵試験、水の浸入に対する保護の試験 等様々な試験を行っています。

安全試験・環境試験・信頼試験をご検討の際は、是非下記の弊社窓口へご相談ください。

松阪事業所：〒515-1104 三重県松阪市桂葉町718-1

URL: www.safetyweb.co.jp E-mail: sales@cosmos-corp.com

【お問い合わせはCS部まで -- TEL: 0598-30-5225(直通), FAX: 0598-30-5571】

株式会社コスモス・コーポレーション

文書管理番号: 008SP

発行: 2013-07-24

改定: 2022-10-14

社長の独り言

2025 年 9 月 26 日

濱口 慶一

猛暑が続いた異常気象もようやく落ち着き、最近は従来の秋口らしい気候に戻ってきたように感じます。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

私はこれまで「インフルエンザにもコロナにもかからない」と豪語しておりましたが、9月初旬に社員と2日間の同行出張をした後、思わぬ事態に見舞われました。出張後、同行した社員がコロナ感染で休暇を取っていると聞き、まさか自分も.....と思っていた4日後、出社時に頭痛を感じました。念のため自宅にあった検査キットで検査を行いました。慌て者の私は、試験紙の反応を確認する前に「陰性だ」と早合点してしまいました。ところが、20分後に改めて結果を確認すると、しっかりと陽性反応が出ており、コロナ感染が判明しました。すぐにかかりつけ医に連絡し、駐車場での診察を受けたところ、コロナ陽性との診断を受け、薬を処方されて自宅療養となりました。幸い、発熱や喉の痛みはなく、症状がほとんど出ないまま経過しました。血痰が出て苦しく感じた時もありましたが、現在は鼻水が出やすくなった程度で、ほぼ通常の生活に戻っています。最近では、症状が軽いため感染に気づかず出社している人も少なくないようですので、不調を感じたら早めの受診をお勧めします。

そうした折、T社の電気ケトルの電源プレートに関する自主回収のニュースを目にしました。企業の事故解析結果がホームページに公開されており、その内容を詳しく読みました。製品安全分野でエーペックス・インターナショナル社での7年間の勤務、そしてコスモス設立以来39年、合計46年間にわたり製品安全評価・認証に携わってきた経験から、今回のリコールについていくつかの疑問を感じています。

まず、開発段階でどのようなリスク分析が行われたのかが気になります。対象製品は、ユーザーが電源コードを頻繁に抜き差しする構造になっているようです。仮に、1日3回（朝・昼・夕方）使用し、その都度コードを抜き差しすると、1年で約2,190回ものストレスがACコードやプラグ部分にかかる計算になります。電気用品安全法で規定されているコードの折り曲げ試験の最大回数（別表8及び省令第十二号）を超える可能性もあり、この構造自体に問題があるのではないかと感じます。

この点から、私は製品設計段階でのリスク分析が十分ではなかったのではないかと考えています。また、認証機関の評価時にも同様の課題があったのではないかと思います。ISO 17021でも求められる技術倫理の観点から考えても、「ユーザーの誤使用」として片づけるのは無理があるように感じます。福島原発事故や震災被害を経て問われた「国民へのより安全・安心な配慮」という視点からも、企業側の安全設計責任を見直す必要があるでしょう。私の経験から見ても、今回の事例は見逃ごせない問題です。もし私の見解が偏っていると感じられる方がいらっしゃいましたら、ぜひご意見をお寄せください。現在、事故調査員としても活動していますが、こうした観点から今後の議論に参加していきたいと考えています。もし関係委員会で「扱いにくい人物」と見なされるようであれば、自ら任を辞したいと思います。

私は、いかなる組織や利害関係にも縛られない独立した立場から、これまでの経験と規格策定の経緯を踏まえ、公平な判断をしていく所存です。かつて、ある製品改良に関して「この製品改良では死亡事故につながるおそれがある」と審査部のスタッフと議論したことがあります。その際、ある社員が「その改良の否定まではできない」と発言しましたが、私は「たとえ国に休止届を出してでも、その改良は認められない」と強く主張しました。結果として、その1か月後、他の評価機関が審査した同型機で死亡事故が発生しました。自分がかつて強く主張していれば防げたかもしれないと今でも悔いが残ります。その経験から、二度と同じ過ちを繰り返さないよう、製品安全の原点に立ち返って取り組んでいきたいと考えています。今後とも皆さまのご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

趣味の日本蜜蜂の養蜂ですが、1群ではあるものの元気に活動しています。ただ、いつものように秋口の大雀蜂の襲来で、3日から4日くらいの間、1匹も巣箱の外に出ないことが度々起きるようになりました。

● ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ(EMC, Safety and Energy Conservation)**分野に係わる、世界の主要機関・地域において実施され、かつ電気電子製品に適合が求められている規格/法規制に関連する情報をお届けします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えていただけることが本誌の目標です。情報源を明示しますので、読者の皆様の関心の大きさに応じてさらに深掘りしていただくことができます。

本誌の内容は、各国の規制・規格の対象製品の試験、認証、開発、管理に携わる方々にとり必読です。

- 対象機関・地域: IEC 等国際機関、ならびに、FCC、UL を含む米国、EU、CENELEC、CEN を含む欧州、その他オセアニア及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: 上記の対象機関・地域のウェブサイトもしくは情報サービス。また、ご協力の同意をいただいた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの、当該分野の識者の方から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレイション CS 部 (カスタマーサービス部) まで ishii-keisuke@cosmos-corp.com

Tel 0598-30-5225

Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、46 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレイションは、下記ウェブサイトの運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可をいただいております。翻訳転載された記事の著作権は原著作者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the website information from the above listed organizations with each organization's conditions. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2025-10-01 (No. 179)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレイション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1 ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集担当: 山中慎一

© 2025 株式会社コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。